



# 二輪草だより



## 『地域で働く看護職のための生涯学習支援研修』終了報告

職場適応支援担当 菊地美登里

旭川医科大学二輪草センターでは、今年度新たな取り組みとして「地域で働く看護職のための生涯学習支援研修」を行いました。訪問看護を実践している看護職から「看護技術などの基礎を再度学習できる場がない」「病院での治療処置が進歩し不安」などの声があり、大学の施設を活用し地域貢献ができないかと考え企画しました。

研修の目的は、①訪問看護に必要な知識と技術を再習得すること②大学病院と訪問看護ステーションの交流を図ることです。11月26日(火)・28日(木)の2日間で行い、定員は5名としました。

1日目は「基礎看護技術」の研修を実施し参加者は2名でした。現場で必要とされる技術であるが体験の機会が少ないとのことで、「末梢静脈留置針挿入」「経尿道的膀胱留置カテーテル挿入」の技術について、DVD視聴後モデルを用いて演習を行いました。看護職キャリア支援教育担当 三浦看護師長と、6階西病棟 横井副看護師長がマンツーマンでサポートし、参加者からは一つ一つ丁寧な説明で余裕をもって学べたとの感想をいただきました。また在宅での実践の工夫や困難な事などの情報交換ができ、私たちにとてもよい学習の機会になりました。



2日目は「在宅での運動機能リハビリテーション」について行い、参加者は5名でした。リハビリテーション部理学療法士の朝野さんに、廃用予防や在宅でできる基本的な機能訓練について、講義と実技を合わせて実施していただきました。現場での疑問や困難事例について参加者から活発な質問があり、対応策を参加者全体で考え共有することができ有意義な時間になりました。最後に、講師の朝野さんから「急性期病院は在宅の必要がある」と話され、改めて急性期病院の看護職が在宅看護を学ぶ必要性を感じました。

初めての取り組みで不安もありましたが、参加者からは「大変良い企画で継続してほしい」「もっとリハビリや看護技術について学びたい」との意見があり、今回のような研修の機会を必要としていることがわかりました。



今後は、ますます在宅医療・在宅看護の重要性が高まってきます。訪問看護にかかわる看護職、病院施設の看護職の双方が有意義な研修となるように検討し共に学んでいきたいと考えています。

## 『看護学生と看護師の語る夕べ』開催のお知らせ ～いきいきナース!!これがあるから働ける“私のリフレッシュ法”～

日時:平成26年1月28日(火)17:30～18:15

場所:輸血部カンファレンスルーム(中央診療棟3階)

対象:看護学生・看護職員

講師 \*5階西ナースステーション 看護師 石井 沙苗さん  
\*10階東ナースステーション 副看護師長 鳥居 実穂子さん  
\*7階西ナースステーション 看護師 工藤 諭さん

☆お誘い合わせの上、ご自由にご参加ください。先着30名の方には飲み物とサンドウィッチを用意しています。  
☆託児ご希望の方は、事前予約制ですので、二輪草センターまでご連絡ください。(申込締切1月24日)

## 『第10回医学部学生と女性医師の語る夕べ』終了報告

二輪草センター 助教 菅野恭子

平成25年11月20日、第10回医学部学生と女性医師の語る夕べが開催されました。今年度は「身近な先輩に学ぼう!ワークライフバランス」と題し医師としての仕事と子育てを両立されている3人の先生方に体験談を語って頂きました。



まずはじめは、旭川医科大学内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野の河端菜穂子先生から自身の体験談をお話していただきました。研修医2年目に第1子を出産し産後まもなく復職され、循環器内科というハードな科でありながら当番・当直等をこなしキャリアをつまれ、現在は第2子を出産し復職したばかりとのことでした。淡々とした語り口で華奢な外見によらず強い意思とバイタリティーに圧倒されました。2番目にお話し頂きました旭川医科大学小児科の山本志保先生は旦那さまの留学に同行された際のフィンランドでの生活の様子やフィンランドの子育て事情について写真を用いてわかりやすくお話して下さいました。フィンランドでは性別役割分業の概念が薄いため共働きの家庭が多く、男性も積極的に育児休暇をとり育児に参加しているとのことでした。他国の子育て事情を知る良い機会であったと思います。また、子育ての経験が現在の仕事に活かされていることもお話されていました。最後は旭川厚生病院整形外科の相木比古乃先生がお話しして下さいました。相木先生はキャリアをつまれてから30代半ばで第一子をご出産され、比較的余裕をもって両立できていたようですが、第2子になかなか恵まれずご苦労されたとのことでした。40代で第2子を授かり現在も育児をしながらフルタイムで働いている様子をお話して頂きました。出産時期が異なり働き方もバリエーションに富み3者3様でしたが、3人に共通していたのは周囲の職場の同僚や家族の理解と協力が得られていたことではないかと思いました。

講演後のグループディスカッションでは学生さんたちからどの様にして科を決めたのか、結婚相手に求めることや学生時代のいつ頃から子供をもつかについて考えていたか等の質問について先輩医師からの具体的なアドバイスが話し合われました。今回は医師24名、学生が15名と再試前の忙しい時期ではありましたが多くの学生さんに参加して頂きました。早い時期にロールモデルの体験談を聞くことは今後の自分自身の働き方や生き方の参考になると思いますので今後も多くの学生に参加して頂ければと思います。



最後になりましたが、主催頂きました旭川市医師会および北海道医師会にこの場を借りて、お礼を申し上げます。またお忙しい中ご講演頂きました先生方にも深謝致します。

## 病児一時預かり室・バックアップナース・病後児保育室・カウンセリング相談 【11月20日～12月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	1回	利用回数	1回
バックアップナース	依頼回数	13回	稼働回数	13回
病後児保育室	依頼回数	18回	利用回数	10回
カウンセリング相談			利用回数	3回

\* 病児一時預り室・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

### 【お問い合わせ先】

旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)  
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1  
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249  
E-mail: [nirinsou@asahikawa-med.ac.jp](mailto:nirinsou@asahikawa-med.ac.jp) 開設時間8時30分～17時15分

